

きもちが かたちになる

(しめかざり
多様化の要因)

「よい年を迎えたい」。この1つの願いのために、なぜしめかざりはこんなにも多様化したのでしょうか。そこにはさまざまな要因が考えられます。それらの問いに、作り手ひとりひとりが出した答えが、しめかざりの多様性を生み出しているのではないのでしょうか。

来年も
よい年にしたい!

きもち



〈 思考例 〉

◆具体的に、どんな年にしたい?

具体化

去年は病気をしたから、健康で飛躍できる年にしたいなあ。

◆その気持ちをどんな「かたち」にすればいい?

物語力

長寿とその飛翔にあやかって「鶴」のかたちを作ってみようかな。

◆その「かたち」に、どのように思いを込める?

抽象化

鶴の羽を12束の藁で作って「一年」の福をあらわしてみよう!

◆お正月に迎えるカミサマはたくさん。トシガミ、エビス…どうする?

トシガミ

カミサマによって形を変えてみようかな。全てのカミサマに喜んでもらえるように。

◆日々お世話になっているモノや場所にも感謝したいな。

飾る場所

農機具や井戸、自転車にもつけようかな。飾り易いように輪っかのかたちにしよう。

◆材料は気候によって制約があるよね。どんな素材で作る?

気候・材料

このあたりは稲が育たないから、近所に生えているスゲを使ってみよう。

◆その土地ならではの事情や風習。どう取り入れようか?

風土性

「関西の門付け、ちよろけんのかたちです」(京都にて)
「ここは神の島だから紙垂をつけるのよ」(宮島にて)

◆正月には集落で挨拶回りをしなくては。親戚も来るなあ…

地域性

人が来るなら今年も飾ろう。どうせなら隣の家よりちょっと大きくてカッコイイものを作りたい!

◆戦後の貧困、70年代の減反政策。身の回りには様々な問題があるね。

社会的要因

収入が減って困った…。おじいに習ったこのしめかざり、沢山作って売ってみようかな。

◆昔は年男(家長)が作っていたけど、今は作り手もさまざま。

作り手

「大量だから大型乾燥機も使っています」(東京の職人さん)
「紙垂は紅白にしたほうが売れるのよ」(静岡の露店にて)

◆同じものを作っても人によって全然違うものになるね。

個性

「私は力がないから細くなっちゃうの。でもそのぶん、きれいに仕上げたいの」(宮城にて)

かたち